

平成31年3月8日

果物の王様・ドリアンが開花しました ～国内での開花は非常に珍しい！～

京都府立植物園の観覧温室で、ドリアンが開花しましたのでお知らせします。

本種は高さ 30m 以上になる常緑の高木で、インドネシア、マレーシア、タイ南部などの赤道直下付近で栽培が盛んです。1 樹当たり多くの花芽が付き、順次開花していきます。開花期は年 1 回で果実の収穫期は地域によって異なります。開花は夕方から始まり、花からは甘酸っぱい匂いを発して、花粉を媒介するガヤコウモリを誘引します。果実は球形～卵形で受粉後 13 ～ 16 週間で成熟し、大きいもので重さは 1 ～ 4 kg で表面は大きなトゲが密集しているのが特徴です。

一般的に、果実の仮種皮を生食し、東南アジアを代表する熱帯果実の一つで「果実の王様」とも呼ばれています。

学名：Durio zibethinus

原産：西マレーシア、インドネシア

科名：アオイ科



京都府立植物園で開花しているドリアンは、1999 年にマレーシアのサラワク州クチンから導入された接ぎ木株です。国内での開花・結実事例は珍しく、府外では、夢の島熱帯植物園と熱川バナナワニ園で結実している事例があります。

開花しても果実の肥大過程で落果することもあります。また、他家受粉の方が自家受粉よりも着果率や果実品質で勝ると言われています。